



問い合わせ先
 泗水図書館 ☎ (38) 6866
 中央公民館図書室 ☎ (25) 1672
 七城公民館図書室 ☎ (25) 1580
 旭志公民館図書室 ☎ (37) 3111 内線303

閉館日・閉室日
 泗水図書館 月曜日・月末・祝日
 中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日
 七城公民館図書室 日曜日・祝日
 旭志公民館図書室 日曜日・祝日

※図書イベント情報は、36ページの行事予定へ掲載しています。



これは「国民読書年」のロゴマークです。
 国が読書に対する国民意識を高めようと、2010年を「国民読書年」と定め、いろいろな取り組みを進めています。
 この機会に読書をしましょう。

新着・お薦め図書

- 泗水図書館**
 小暮写真館 宮部みゆき 著
 なりひらの恋 三田誠広 著
 ガモウ戦記 西木正明 著
 平城京を歩く 森 郁夫・甲斐弓子 著
 オトコの介護を生きるあなたへ 男性介護者と支援者の全国ネットワーク 編著
 木のなまえノート いわさゆうこ 作
 ちゅうしゃなんかこわくない 長谷川義史 絵
- 中央公民館図書室**
 江戸に学ぶ人育て人づくり 小泉吉永 著
 Lisetteの大切な手仕事 Lisette 著
 天地明察 冲方 丁 著
 北帰行 佐々木 譲 著
 ねずみくうみへいく なかえよしを 作
- 七城公民館図書室**
 だじゃれ日本一周 長谷川義史 著
 マドンナ・ヴェルデ 海堂 尊 著
- 旭志公民館図書室**
 ゲゲゲの娘、レレレの娘、らららの娘 水木悦子 著
 ふたりは いつも アーノルド・ローベル 著

モチモチの木 齊藤隆介 作 滝平二郎 絵

普段はシヨンペンたれのおくびょう豆太が、霜月20日の晩に爺さまが病気で苦しんでいるのを見て、勇気をふるい起こし、霜の夜の峠道を裸足で医者様を呼びに走ります。そして、意外やモチモチの木に灯がともるすばらしい光景を見ることができたというお話です。「人間、やさしささえあればやらなきゃならぬこととは、きつとやるもんだ」と言う爺さまのことばが心に残ります。

私はおはなしの会「ラブブック」で参加し、旭志地区の幼稚園、小・中学校、施設などで、本の読み聞かせをしています。

モチモチの木 齊藤隆介 作 滝平二郎 絵

みがかせやマジックなどをしていいます。活動の中で訪れた中学校でのお話では、「前に読んでいたことがあったけど、その時とはまた違う感動で聞くことができました」という生徒の感想があり、みんな静かに息をつめたような表情で聞いていました。



耳より情報

七城公民館図書室はこんなところです

絵本を中心に児童書・一般書など約6,000冊を所蔵しています。一般書は、新刊、話題の本を揃えるように心がけています。新着本には内容が分かりやすいように、紹介を手作りしています。絵本・児童書も皆さんのニーズに合ったものを選んでいきます。室内では、皆さんがゆっくりと過ごしていただけるように椅子を増やし、心地よい環境を目指しています。皆さんのお越しをお待ちしています。

開室日
 月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時
 土曜日 午前10時～午後4時30分
貸出冊数 1人5冊まで
貸出期間 1週間 (七城公民館図書室)



肥後狂句桜会 5月例会
 メロドラマ 箱ごとティッシュ置いとらす 藤木 清子
 風の便り 今も寅さんしよる友 光堀 善教
 旅先で 妻と一緒に待てたつた 上村 玲子
 酒のせい 何処にでも寝る癖のつき 小川 繁美
 好きねエ 葉のみのみ飲みよらす 狩野 本六
肥後狂句水笑会 5月例会
 衣がえ するしこ着物持つたらん 井手 水光
 立ち話 知れ渡つとる夫婦仲 続 義昭
 難産で 先行きどぎゃんなるもねろ 吉岡 三水
 難産で 後は産まんで言わしたが 平井 江彩
 立ち話 家に入ると長うなる 中島 五女
七城短歌会 5月詠草
 麦穂田の日ごとに熟れる隣り田の葉 緒方 寛子
 煙草若さのみどり目にしむ 緒方 寛子
 真昼なる山里無人販売所竹の子二本 岩崎 照代
 の百円玉ひびく

夏と冬同居の襲来卯月半ば重ね着して出づデイケアの朝 森 道子
 咲けば散るさだめに折しもアメリカミズキ吹き来る風に散り始めたり 高木 精
 草取りの手休め指を伸ばしみる甲なる皺は歳偽らず 池田カツ子
菊池短歌会 5月詠草
 いかばかり和ませくれし桜花早やみどり濃くなりて陰増す 梅野カヲル
 音に見え春の嵐にたゆたひて藤の花 黒田 衣子
 房真白輝く 積年の懸案に挑むとふ息子枯死危ぶみし薔薇の芽赤し 古賀 勝士
 ひっそりと留守居のごとき村ながら風生るるとき薫る五月は 竹野美智代
 春昼の雨降りこぼすうすら雲辛夷の花の白浄めつつ 中川 愛子
泗水短歌会 5月詠草
 飛び歩き庭芝つづく雀二羽我に見えざる餌があるらし 大島 ひと
 新緑のみどりに染まぬ紅楓紅深々と色を保てり 平嶋きくえ
 四月大方をベッドに伏して考える事も衰え時流れたり 中山 定子
 春の日に友の便りのとどきおり八十八路になりても心ときめく 矢野 悦子



晩霜にうたれし山椒青実なし去年来し鳩か二羽が飛び去る 高藤タツノ
旭志文芸俳句会 5月詠草
 山独活を貰ひて夕餉の酒を恋ふ 芹川 馨子
 三ツ葉芹和え物もあり句会かな 中尾ヨシコ
 漣のきらめき光る春の川 芹川のり子
 夜も昼もひらひらと竹の秋 水谷 ミネ
 卒寿まで読み書き出来る若葉風 東 芳子
万句の里俳句会 5月句会
 白薔薇白よりしろい色をして 中路 郁子
 合歓高しすこし離れて仰ぐ花 田中ひさ子
 夏わらび草の香りの中にあり 東 鈴子
 娘が呉れし枕で夢のカーネーション 稲田 羚子
 花樽さらりと晴れて牧の朝 梅田 昭子

おわびと訂正
 広報きくち6月号20ページのせせらぎ俳句会に名前の誤りがありました。正しくは次のとおりです。
 誤 渡辺大寿 正 渡辺一史
 おわびして訂正します。

我が命弥陀にあづけて花の下 村山 数恵
 菖蒲湯や疎みし父を懐かしく 藤本 邦治
 路も一ト皿病後の我の朝の膳 内村 泊虹
 風の中蜘蛛の子顔に流れ来し 藤本アツ子
 日が長く部活も長く帰宅遅し 渡辺 大寿

